

日本社会福祉系学会連合からの報告

日本社会福祉系学会連合
会長 保正 友子(日本福祉大学)

日本社会福祉系学会連合(以下、学会連合)は、社会福祉系学会の学会活動の質の向上と社会貢献をめざすための情報交換ならびに連携を目的とする組織で、現在22学会が加盟しています。

主たる事業は、①会員の活動に関する情報交換、②シンポジウム等の開催、③日本学術会議の活動に対する支援と協力、④その他会員による活動の促進に貢献する事業です。そのもとで、各学会のイベント・学術情報の周知、加盟学会の活動への補助金制度の実施、災害福祉アーカイブの設置等を行っています。活動内容の詳細については、学会連合ホームページを御覧ください。

▼日本社会福祉系学会連合ホームページ

<http://jaswas.wdc-jp.com/>

今回は、2023年度の動向を3点にわたりご報告します。

1点目は、加盟学会と会員向けのコロナ禍での学会活動に関する現状と課題を把握するため、調査を予定していることです。すでに22の加盟学会事務局に対しては、依頼を行いました。なお加盟学会会員の皆様には、倫理審査委員会での承認後に調査にご協力いただきたいと考えていますので、よろしくお願ひ致します。調査結果がまとまりましたら、皆様にお知らせします

2点目は、学会連合会長である私が、一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟の理事として選出されました。これまでは日本社会福祉学会からの選出という形でしたが、広く加盟学会からの声を届ける必要性から、日本ソーシャルワーク教育学校連盟の2023年度総会で学会連合からの選出に変更となったためです。日本ソーシャルワーク教育学校連盟の動きについては、学会連合のホームページを通じて日本社会福祉学会会員の皆様にもお知らせしていきます。

そして3点目は、学会連合が支援と協力を行っている日本学術会議社会学委員会社会福祉学分科会より、2023年9月に『見解 コロナ禍で顕在化した危機・リスクと社会保障・社会福祉 ～誰一人取り残さない制度・支援への変革～』を発出したことです。それに先立ち、2023年3月26日には同じタイトルでの公開シンポジウムを開催しました。見解については、以下のURLより御覧ください。

▼見解 コロナ禍で顕在化した危機・リスクと社会保障・社会福祉 ～誰一人取り残さない制度・支援への変革～

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-25-k230922-6.pdf>

以上のように、学会連合では多様な活動を展開しています。日本社会福祉学会会員の皆様にも御理解・御協力を賜れば幸いです。